



おがほら 雄鹿原診療所 東條環樹所長からの便り



〔診療所近景〕



診療所の現況

- 疾病芸北地域(旧芸北町)が対象医療圏
- 人口は数年前に 3000 人を下回り、高齢化が進んでいる

北広島町は平成 18 年 2 月に旧千代田町、大朝町、豊平町、芸北町の 4 町が合併して誕生しました。雄鹿原診療所は長年旧芸北町の国民健康保険直営診療施設として診療を行ってきました。平成 6 年、現在地に新築移転する際、保健、福祉、医療の各部門を統合した、当時としては先進的な総合施設「芸北ホリスティックセンター」の医療部門として新たなスタートを切りました。市町村合併により北広島町雄鹿原診療所となった現在、町に

おける役割や総合施設としての機能性などに若干の変化はありますが、地域住民の健康を守り、生活を支えることをテーマとして多職種が協力して日々頑張っています。

芸北地域(旧芸北町)が対象医療圏ですが、人口は数年前に 3000 人を下回り、高齢化が進んでいます。入院施設を持たない無床診療所としてのアイデンティティーはプライマリケアの提供、健康増進、(発症、重症化)予防に加え、在宅診療と

考えています。平成13年に卒後5年目で当診療所に赴任して以来、それらを念頭に日々診療を行っています。午前中は外来診療で、ほとんどがかかりつけ住民の定期受診です。高齢者が多く、高血圧、糖尿病、高脂血症の長期コントロールをいかに適切に行い、受診者だけでなく、診療者である自身のモチベーションをいかに維持していくか、悩みながらの外来診療です。また総合施設であることを生かして、保健との連携を実践しています。健(検)診での有所見者をいかに受診に結びつけ、早期に適切な介入を行うか、それを繰り返すにつれ、地域の元気さを増進するためにどれほど保健業務が重要か実感しつつ診療しています。

午後は往診と予約外来を行っています。特別養護老人ホーム、生活支援ハウスと在宅診療に往診します。特に在宅緩和ケアに力を入れている当施設は在宅療養支援診療所としての申請もしており、自宅で最期を迎えたい本人、家族の希望に応じて多職種、他機関と協力しての包括ケアを24時間体制で提供しています。中山間地であること、医療資源が乏しい状況を言い訳にせぬよう、関係機関と情報を共有し、知恵を出し合って支える体制を保っています。予約外来では小児アレルギー外来、ニコチン依存症外来、検診後の保健指導などに対応しています。そ



の中でも小児気管支喘息は良好なコントロールを得るために患児、家人の教育が必須であり、時間的な余裕のある予約診療で対応しています。地道に診療を続け、気管支喘息発作で緊急受診する子は激減し、近隣の市町から受診される子も増えてきました。

二次医療圏の医療供給体制にも微力ながら協力しております。昨今の医師引き上げで勤務医が減少し、当直業務が厳しさを増した地域中核病院である安芸太田病院の夜間当直業務を支援しています。昨年度までは月2回でしたが、同院の医師数が増した今年度からは1回となりました。緊張しますが、良い刺激、勉強になります。

地域医療の広報、教育も行っています。医学部、看護学校、福祉学科での講義、施設への研修医、医学生、海外研修生、外国人医師の受け入れ、実習指導、近隣医療施設のコメディカルとの研修会、症例検討会の開催など、地域で診療しているからこそできる情報の発信を続けています。地域医療こそ専門的で、先進的で、グローバルであるとの信念の下、これからも広島県の北で楽しんで診療していきます。

